

ワンポイントアドバイス

抜歯は必要か

川口市立医療センター

きたはら たつや
歯科口腔外科 北原 辰哉



患者さんはもとより、私たち歯科医も抜歯は避けたいものです。しかし抜歯せざるを得ない場合があります。例えば、歯の根の先に細菌が住み着き腫れて嘔むと痛い場合など、治療を行っても改善の見込みがない時です。また症状がなくても病巣が大きな場合や周囲に悪影響を及ぼす場合、体の抵抗力が落ちるような治療（化学療法や心臓の手術・移植治療など）を受ける場合には小さな病巣でも抜歯が必要です。

管理の行き届かない親知らずも抜歯は必要です。特に歯肉が覆いかぶさり歯の一部が口腔内に露出しているものは、奥に細菌が入り込み腫れて痛くなります。また前方の歯の見えにくい部位を虫歯にしてしまい、症状が出るころには治せないほど虫歯が進行する場合があります。

つまり、抜歯は細菌の進入路をなくすため、細菌の温床となった部位を取り除き、細菌の住みかをなくすために必要な処置です。

抜歯すべき歯を残しておく、歯の問題だけにとどまらず、鼻やのど、全身にまで影響が及ぶこともあります。その際には腫れや眠れないほどの痛みが出る以外に高熱が出る、口が開かない、飲み込めない、息苦しいなどの症状が出現します。入院治療が必要となり、場合によっては命にかかわることもあります。

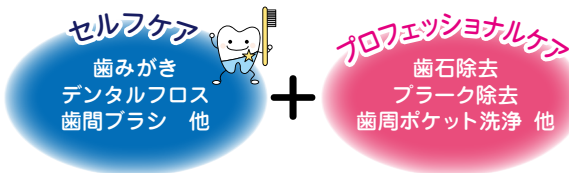
これらを未然に防ぐためには日頃の管理が必要になります。疲れた時や風邪をひいた時に腫れや痛みが出ることはありませんか？それは要注意です。これを機会にかかりつけの歯科医院を持ち、相談されることをお勧めします。

すこやか生活習慣

ステキな笑顔は口元から！

歯や口は、食べることや、会話をしてコミュニケーションを楽しむことに深く関わっています。歯や口が健康だと、食べ物をよく噛むことができるので栄養状態がよくなります。さらに、清潔感のある輝く口元は、表情や会話にも自信が持て、外出が楽しくなったり、気持ちよく笑ったりでき、生活を豊かにしてくれます。

この大切な歯を65歳で25本以上（65/25）、80歳で20本以上（80/20）残すことが目標とされていますが、実際に残っている歯の平均は65歳で23.2本、80歳では12.7本と少ないのが現状です。大人が歯を失う原因の約8割は「歯周病」と「むし歯」です。主に歯垢（プラーク）に住む細菌が原因で起こります。「私は歯を磨いているから大丈夫」と思っているかたも安心はできません。毎日のセルフケアを見直し、定期的な健診とプロフェッショナルケアも大切です。



口元のケアを見直して、輝く口元を手に入れ、いつまでもステキな笑顔で過ごしましょう。

☆6月4日～10日は「歯と口の健康週間」です

6月4日（日）10：00～12：00リリアにて「歯の健康フェスティバル」を開催します。大切な歯をチェックする機会として、是非ご家族でお越しください。

防犯

侵入盗にご注意を！

市内では、平成28年中に288件の侵入盗被害が発生しました。

5月はゴールデンウィークなど、長期不在になる機会が多くあります。

被害に遭わないために、対策を心掛けましょう。



1 施錠の再確認

就寝前や外出時にもう一度施錠の有無を確認しましょう。また、在宅時にも鍵をかける習慣をつけましょう。

2 防犯グッズの活用

窓の二重鍵、センサーライト、防犯砂利など泥棒が嫌がる環境づくりが効果的です。

3 ご近所ネットワークの構築

泥棒は住民の視線を嫌います。ご近所同士で声を掛け合い、住民の目で泥棒が近寄りにくい環境をつくりましょう。

4 その他

留守と判断されるため、洗濯物を干したままにしたり、新聞や郵便物をためたままにしないようにしましょう。

問防犯対策室 ☎048-242-6361

ひと

川口を音楽のまちに

作編曲家

しのだ もとかず
篠田 元一さん

閑静な住宅街にある音楽スタジオ内にオーケストラの華麗な音楽が響く。木管楽器・金管楽器・打楽器・ピアノなど、数十の楽器の音を重なるコンピューターを用いた作曲作業がここで行われ、新たな音楽が紡がれていく。「理屈で割り切れないところが面白い」と熱く語る。どんなに良い譜面だと思っても、現場で演奏してみると全く違う印象を受けることも多い。

姉の影響でピアノを始めたが、大学では数学を専攻。しかし、音楽を諦めきれず音楽学校にも通う生活を始めた。転機が訪れたのは大学2年の時。音楽学校の勧めで受けたオーディションに合格し、いきなり人気アイドルのバックバンドとして3週間のツアーに参加することに。それがプロとしてのキャリアのスタートだった。それから40年近くプロの音楽家として活動を続け、今ではピアノ・キーボード演奏、作曲・編曲だけでなく、教則本の執筆、電子音楽機材の開発アドバイザーなど活動の場は多岐にわたっている。歩み始めたプロの道では、当然何度か壁にぶつかった。音楽の英才教育を受けていないことにコンプレックスを感じることがもあったが、「できないことをできるまで必死に練習したり勉強するのは、大変だけれど楽しかった。結局音楽が本当に好きなんです」と微笑む。

作品を作る上で心掛けてい

最近では若者ら後進の指導にあたり、発表の場を提供する活動にも力を入れている。「夢は川口を音楽のまちにすること」。平成26年から参加している川口ストリートジャズ・フェスティバルは理想の形だ。街中から自然に音楽が聞こえてくる、そんな新たな文化が川口に芽吹くことを願っている。（敬）

